

## 12月 4日（金）

おはようございます。

今日から試験ですけれども少しだけお話します。昨夜、インターハイで優勝した3つのクラブの優勝報告会を行いました。

まず体操部は、8年ぶりに団体優勝しました。練習場が新しくなって早速よい結果を出せました。体操部はたいへん苦勞した時期もあり、インターハイに出られないということもありました。大阪の代表自体になれないということもあったのです。最近、それを克服して全国大会で見事優勝を果たしました。報告会には全国からOBのオリンピック選手も来てくれました。

次にテニス部は、シングルスで3年生の望月勇希君が、インターハイのチャンピオンになりました。彼は春の選抜大会でも優勝しましたので、春と夏を連覇したのです。これはまた、大阪では初めてだということでした。テニス部は団体戦では決勝で敗れ残念ながら準優勝でした。決勝の相手は兵庫の代表で、神戸の単位制高校でした。彼らは日頃は皆学校には行かないでクラブチームで練習をしているのだそうです。そしてその試合のときだけ集まってくるというような、半分ノンプロチームみたいな形をとっているのですが、ここに敗れました。生徒が学校で力を合わせて練習している学校テニスがうちです。インターネットの書き込みなどを見てみても清風を応援してくれた人が多かったのです。惜しくも敗れてしまいましたが、決勝までいったということはすばらしいことでもあります。

最後にボート部は、舵手付クォドルプルという団体戦で優勝しました。次の話は本来、学園長先生がお話されるべきことですがけれども、私から話します。今から50年前に、学園長がテレビを見られていたのでしょうか、あるいはニュースで知られたのかはわかりませんが、レガッタの早慶戦があり、その日はすごい雨の日だったそうです。その雨水がボートに入って舟が沈没しそうになるのを、早稲田の選手はボートの中の水を汲み出しながらレースをしたというのです。レースが始まる前に、汲み出す大きな杓のようなものを用意して早稲田は戦ったのです。だから舟は沈みそうになるけども、最後まで沈まないで早稲田は勝った。慶応はそういう用意をしてなかったので、ものすごい雨に降られて、途中でシャツとかを使って一生懸命汲み出しはみたものの、結局舟は沈んでしまった。それで慶応は負けた。ところがこの試合の後に早稲田の方からこういう形で勝ったのは自分らとしては本意ではないし、慶応に気の毒だから試合をやり直そうと相談をした。それを聞いて慶応は、「いや試合は試合や、そういう準備をできなかったのはわれわれの問題であり、試合としてはわれわれの負けで早稲田の勝ちということいい」と返事した。それを聞かれた学園長先生が、これは「ほんまにスポーツマンシップにのっとった立派な試合のありようだ。正々堂々とした試合の

ありようであり、また相手に対する思いやりが十分にある。こういうことをスポーツでやれるのはたいへん意味がある」と思われてすぐ清風にボート部を作られたのです。

最初のうちは、ボートが蛇行してなかなかうまくいかなかったらしい。一昨年に準優勝し、今年は優勝しました。このボート部は他のクラブとは少し様相が違って、推薦で入学した生徒は一人もいません。中学から入部した生徒が、こつこつと一生懸命練習をして、優勝をしたということであり、昨日私学課からも、また大阪府からも挨拶に来てくれました。大阪府もきちんと歴史を調べてくれて、私学課長に、これは清風が優勝したというだけのことではなく、ボートとしては大阪初めての優勝であり、おめでたいことだと言ってもらいました。

話は飛びますが、これから必要だとされるグローバル人材というのは、英会話ができることはもちろん必要でしょうが、それだけではだめです。いろいろなことができなくてははいけません。またたんに受験勉強だけやるというでも足りません。しかし、勉強とスポーツを両立するというような意味でなら、ボート部のありようというのは、ひとつのお手本になるのだろうと思っています。

まあいずれにしましても、3つのクラブが一生懸命に精進して、こういう優勝報告会をすることができましたので、他のクラブも頑張って報告会をしてもらえるようにしっかり精進してもらいたいと思います。

では今朝の話はこれで終わります。

( 学校長 )